

杜の伝言板

ゆるるる

特集
復興への道



ちょっとドキドキ・・・
ヘアースタイル体験

祈りを込めたミサンガづくりを通じて
被災からの自立をめざす

●気仙沼ボランティアネットワーク聖敬会

石巻の被災者の外出をサポート

●災害移動支援ボランティアRera

子どもを亡くした遺族が共に支え合う

●つむぎの会



「あ～っ シナイモツゴだ！」

障がい児に新たなチャレンジを

●NPO法人ひよこ会

手作り雑巾で被災者を元気に

●ACT53仙台

●トピックス● Save Japanプロジェクト みんなで守る水辺の自然
～第一回 水辺の貴重な生き物観察会を開催～

●みやぎNPOプラザ● 「市民」と「NPO」を繋ぐ! みやぎNPO情報ネット

祈りを込めたミサングづくりを通して

被災からの自立をめざす

気仙沼ボランティアネットワーク聖教会

気仙沼ボランティアネットワーク聖教会(事務局長:平田 洋子)は、津波と火災による壊滅的被害を受けた気仙沼市において、在宅被災者たちが震災直後に立ち上げたNPOです。当初は在宅被災者向けの物資支援を、相互扶助で行っていましたが、その後、在宅被災者宅を訪問し、傾聴活動を通じて当事者の要望を、他のボランティア団体や行政につなぐ役割を、担うようになりました。とくに聞こえてきたのが、働きたくとも子どもたちの学校の送迎等の関係で、十分に働く時間を確保できず困っているという、地域のお母さんたちの切実な声でした。

その中で生まれたのが、手仕事創出による被災女性の自立を目指す、気仙沼ミサングプロジェクトです。昨年八月に当初三名の作り手を迎えてスタートしたこの事業も、本年五月現在で約六十人(十代後半から七十代まで)と増加し、北海道・東北・首都圏を中心として約二十か所の雑貨屋、カフェやレストランで累計一〇,〇〇〇本以上を売り上げています。

●●● 個人事業主としての作り手

聖教会が掲げたのは、家庭で行う内職の提供というよりは、個々の作り手を「個人事業主」としてとらえ、自立をしっかりと支えようという理念でし

た。そのため、聖教会は一括買い上げなどは行わず、あくまで販売委託とし、作り手ごとに売り上げ(二個五〇〇円)を工賃として還元する形をとっています。



▲事務所に並ぶミサングのストック

等々の材料費(約一割)は個々の売り上げから差し引き、月ごとの売れ残りの在庫管理も、作り手に委ねるという方式をとっています。

また一定の規格のもとで、編み方など自由に創意工夫することができ、作り手は自ずと「どうすればよく売れるか」「他人のものと違う個性が出るか」ということを考えながら、仕事をすることになります。それが作業に変化をもたせ、自分自身の力で立ち上がるという意欲を抱くことにつながると、事務局の久保田久美子さんは言います。

「作り手の方には難しくても自分でも考えてやって下さい」と突き放すこともあり、と久保田さん。とはいえ、

一方的に自由裁量で任せるといわけではなく、編み方のワークシヨップを週一回程度開いて、作り手どうしが共に学び合う機会を設けるなど、作り手の間の情報共有も積極的に進めています。

●●● 口コミで広がる気仙沼ミサング

ミサングの商品パッケージの台紙には、作り手の震災時の状況や復興にかける思いなどのエピソードが掲載されています。エピソードは作り手一人ひとりのインタビュによって、文面に起こされたものですが、心の琴線に触れるメッセージが多いせいか、作り手に返信できる同封の葉書を使って、ユーザーから多くの励ましや声かけが事務局には届いているとのこと。

「遠隔地でもできる支援を模索してください」と久保田さん。ママさん世代の作り手を支援したい、シニア世代を支援したいなど、ユーザーの細かな注文ニーズに応えるような、態勢をとっていることも人気の一つで、口コミでミサングの引き合いをさらに生んでいると見えます。現在、事務局では、作り手の今日



▲エピソードが添えられたミサング

の心境をつづったエピソードを企画して、現在、現

●●● 事務局の機能向上に向けて

聖教会には、救援物資の配布など

を行っていた活動当初は、三十名程度のスタッフがい



▲事務局の久保田久美子さん

を相次ぎ、現スタッフは関東から移住した久保田さん以外に、パート等も含め総勢四人の体制となっています。作り手のひとりである事務局を手伝う千葉さんは「ミサングだけを作っていたときと違い、全体の動きが見えるようになり視野が広がりました」と自身の変化を語ってくれました。

同会は、これまで助成金(赤い羽根の共同募金など)により備品等を揃えてきましたが、大震災から一年が経過して獲得できる助成金の数も少なくなっており、法人格を得ることで信用力を高め、活動継続に弾みをつけたいとしています。またミサングづくりを留まらず、人材派遣会社との連携や学生ボランティアの協力によって、パソコン教室を開催するなど、地域で女性たちが生き生きと活動できるように、本格的な就職支援ができればいいか模索しています。

(東北大学大学院 経済学研究科 高浦康有、佐藤勝典)

気仙沼ボランティアネットワーク聖教会

〒988-0805
気仙沼市西中才115-2 小原商店2F
●TEL: 080-5932-8880
●URL: <http://kese-skk.jp/>



全ての被災者の要望に応えて

東日本大震災直後、多くの被災者は車が流されたり、公共交通機関が途絶え、外出が困難な状況が続きました。震災直後の三月十五日に石巻に入り、泥出しや物資倉庫整理、物資配布などの活動をしていた、北海道のNPO法人ホップ障害者地域生活支援センターは、活動を続ける中で、多くの被災者が外出に困っている状況を確認しました。そこで、三月末から他団体と一緒に無料の移動支援を始め、昨年の四月、NPO法人ホップ障害者地域生活支援センターを中心に、全国から駆け付けて石巻で活動していたNPOやボランティアが集まり、災害移動支援ボランティアRera（代表：竹田保）を立ち上げました。

その後は、石巻地域の外出が困難な人たちが支援するため、いくつかの避難所を回って利用を希望



▲送迎ボランティアのミーティング

地元の送迎ボランティアにシフト

移動支援は、病院のほか、買い物、自衛隊の共同風呂、お寺や火葬場、などの送迎などと多岐にわたり、段々と多くの被災者にとつてなくてはならない存在になってきました。利用者は五月には一日延べ約四十五人でしたが月毎に増え、十一月には延べ約七十人。その一方、送迎ボランティアは、九月を境に、全国からのボランティアが減っていき、移動の希望に対応するのが難しくなってきました。

「この活動は将来的には地元を引き継いでもらう予定で、地元には福祉車両の扱いのできる人が増えることは、とても大切な事と考えていました」と、スタッフの村島弘子さん。

そんな折、北海道の移送・移動サービス連絡会が、国土交通省認定の資格を取得できる、福祉車両ドライバークラス講習会を実施。九月と十二月の二回の講習会では、石巻地域の被災者など、それぞれ二十二人と二十人が参加し、座学や実習の後、Reraからの実技実習も体験しました。その中から

将来にわたり石巻の移動を担うために

現在移動支援は、日本財団から寄贈された福祉車両四台を含めた八台の車で、地元を中心にした五、八名のボランティアが送迎を行っています。地域のタクシー会社などの妨げにならないよう、利用者は障がい者や高齢者、体調不良や公共交通機関が少なく移動が困難な方、などに限り、利用回数も週に二回（病院の場合は三回）に制限しています。利用の際は三キロにつき二〇〇円の協力費（ガソリン代）を負担してもらい、車内に募金箱を設置し、任意で運営費用の募金をお願いしています。

仮設住宅に暮らす高齢者や障がい者は、外出が困難で自宅にこもりがちですが、「Reraを利用して外出し気分転換になった」「ドライバーとの会話で気持ちが和むなど、たいへん好評です。」



▲病院への送迎の様子

Reraでは、こうした移動支援を今後長期でおこなうため、地元スタッフや送迎ボランティアが中心となり、NPO法人化に向けて準備を進めています。その中の一人、相澤和彦さん

は被災し、勤務先の工場が津波被害で撤退。八月からReraのスタッフになって、送迎ドライバーを続けてきました。「送迎をする、被災者の方たちにたいへん喜ばれています。これからもこうした方たちの足として活動していきたい」と話しています。



▲スタッフの村島弘子さん

「今回の経験を活かし、今後全国で起こりうる大災害の際、すぐに役立つ『石巻モデル』を、しっかりと構築したいと考えています」と村島さんは決意を語りました。

災害移動支援ボランティアRera(レラ)

〒986-0872
石巻市田道町1-1-18
●TEL/080-2872-1936
●http://blog.canpan.info/rera/
●http://www.facebook.com/ishinomaki.rera

子どもを亡くした遺族が 共に支えあう つむぎの会

被災地には、津波で子どもを亡くし、悲しみの底に沈み苦しんでいる親たちが、大勢います。つむぎの会は、そうした子どもを亡くした親同士が、悲しみや辛さを分かち合い、共に支え合えるための場を、県内各地で開いています。運営するのは、宮城県内の自殺した遺族が集う自助グループ『藍の会』。昨年の六月に仙台、七月に石巻、八月に気仙沼で開催し、現在は岩沼市を含めた四地域で毎月一回を基本に開催しています。

体験をもとに遺族の語り合い

『藍の会』は平成十七年、代表の田中幸子さんが、自身の長男を自死で亡くした半年後に立ち上げました。「公的な相談機関、カウンセリングなど、さまざまなおりに頼りましたが、誰も私を救ってくれませんでした。そんな時、福島県内で行われた自死遺族の会に参加し、初めて辛い気持ちをわ

かち合うことができ、宮城県にはそうした必要がなくなりました。



▲代表の田中幸子さん

感じ、県などに設立を訴えましたが駄目だったため、自身で立ち上げました」と田中さん。仙台で開かれた藍の会には大勢の自死遺族が参加。その後、参加した人たちが運営に関わるようになり、全県的に自死遺族同士の語らひの場や、メールや電話での相談を受けるなどの活動を、広げてきました。

震災後しばらくは、藍の会は自助グループであり、被災者支援とは一線を画すという思いがあった活動していませんでしたが、五月初めに石巻地域で殉職した警察官と消防士の二人の親から悲痛な相談を受け、心が動かされました。さらに、被災地に多くの心のケアをする支援団体が入っていました。そうした活動で傷つく遺族も多数いることを、これまでの自身の経験や活動から知っていた田中さんたちは、子どもを亡くした親同士で語り合う場所の必要性を痛感し、被災地での活動を始めました。

悲しみや辛さを分かち合う場所として

六月十七日(日)、岩沼市で震災遺族の会「灯里の会」が開かれました。この会は、つむぎの会が当初、仙台と県北にしかなく、県南でも集える場が必要

と考えた遺族が中心になって、岩沼市に今年の三月に作りました。十三時から開かれた会には九人の遺族が参加。会は、自己紹介の後、ここで話したこ



▲灯里の会 クールダウンの茶話会

は外で話さないなど、会の約束の説明があり、その後遺族同士だけで自由に二時間語り合いました。つづいてお茶を飲みながらのおしゃべりをしてクルダワンをし、終了しました。参加している遺族はそれぞれ、やり場のない辛さ悲しみを抱えて日々を過ごし、ここで語り、悲しみや辛さを分かち合うことで、心の均衡を保っています。

多賀城市から参加した佐々木奈央さんは、気仙沼市で被災し、シングルマザーとして女手ひとつで育ててきた一人娘と両親を亡くし、今は多賀城市で一人暮らしをしています。

「それまで、同じような境遇の人がたくさんいる中、悲しみを表に出してはいけないという思いがありました。でもここで、子どもを亡くして号泣している方たちを見て、ああ泣いても悲しんでもいいんだと、はじめて気持ちを素直に出すことができました。生きていくことが本当に辛い自分にとって、ここは安らぎの場であり、自分の気持ち

を整理する場になっていきます」と、つむぎの会の思いを話しました。

田中さんは、

「私たちはいつもグリーフ・is ラブ。悲しみは愛と一体だと、話しています。愛が深ければ、悲しみも深い。悲しみは決して無くなることはないけれど、遺族の皆さんにはその悲しみと共に生きていきながら、少しでも元気に生きていって欲しい。そのためになら、なんでもしようとして活動しています」と語ります。その一環として、石巻市の西光寺、仙台市の慈恩寺という寺院の協力を得て、毎月講和や遺族からの質問を受ける会を設けたり、遺族の困りごとを受けて弁護士など専門家と繋ぐことも行っています。

「遺族には、いつかここが必要のない場所になって欲しいと、願っています。でも辛くなったらいつでも戻ってきてかまいません。そのため二十四時間連絡が受けられるようにするなど、いつでも門戸を開いています」と田中さんは、遺族への思いを話しました。

集いは毎月、

仙台が最終木曜日、気仙沼が第一日曜日、石巻が最終日曜日、岩沼が第三日曜日の十三時から、それぞれ開催しています。場所などはお問い合わせください。

つむぎの会

〒981-0902
仙台市青葉区北根1-13-1-1803
TEL/FAX : 022-717-5066
<http://ainokaisendai.web.fc2.com/>
<http://www.tsumuginokai.com/>



▲お話を伺った佐々木奈央さん

障がい児に新たな チャレンジを

NPO法人ひよこ会



NPO法人ひよこ会(以下ひよこ会)は、二〇一〇年九月に法人の認証を受け、岩沼市土ヶ崎と名取市増田、仙台市青葉区栗生で、障がい児のデイサービスを行っています。また、岩沼市から委託を受け、児童館の運営もしている団体です。

東日本大震災の対応

地震が起きた当日、岩沼のデイサービス施設『びび岩沼』では、七名の子どもを預かっていました。大きな揺れの中、ガラスが割れるなどの被害はありましたが、保護者宛にメールで一斉送信を行い、子どもの無事と、必ず自宅へ送り届けることを伝えました。そして、なんとかその日のうちに、全員を数時間かけながらも、自宅に届けることが出来ました。

施設はライフラインが整うまで一時お休みし、その間に避難所を回り、利用者の安否確認を行いました。その中で、避難所生活をしている障がいのある子どもたちや保護者が、大きなストレスを抱えていることに気づいた。理事長の青野里美さんは、避難所にいる子どもたちを自宅に預かることにしました。

その後、利用者からの「早く施設に通いたい」という声に応え、三月二十五

日から再開しました。「当時はまだ混乱期だったので石巻の方や、福島から避難してきた方などから問い合わせがあり、障害福祉サービス受給者証の有無にかかわらず、子どもをお預かりしました」と青野さん。問い合わせや相談には、なるべく応えるようにし、支援学校等と連携し、進学の手続をするなど障がい児の支援活動を継続してきました。



▲理事長の青野里美さん

ヘアカット体験学習

震災後は、店舗が閉まり、交通もマヒし、みんな余裕のない日々を送っていました。そんな中で、施設として出来ることは何かを考えた青野さんは、新たな体験学習を取り入れることにしました。その一つがヘアカット体験です。障がい児は理容室で髪を切ることが少なく、たいていは親が髪の毛を切っています。震災後、髪の毛が伸びてきた子どもが増えてきたことにスタッフが気づき、ヘアカット体験が始まりました。

地域の理容室に子どもと指導員が訪問し、カットしてもらいますが、最初

は落ち着かず上手くカットできませんでした。しかし慣れてくるとカミソリやバリカンも使用することが出来るようになり、楽しみにする子どもも増えてきて、保護者からも非常に人気がある体験学習の一つになりました。「障がいがあるから出来ないことが、周りの理解やスタッフの付き添いによって出来るようになることで、親御さんからもとても喜んでいただくようになりました」と青野さんは言います。

震災で学んだこと

ヘアカット以外にも多くの体験学習を行っています。中でも人気なのが、音楽療法を兼ねたキッズビート体操です。インストラクターの指導の下、体操を行い、言葉にして挨拶をし、リズムに合わせて踊ります。「リズムに乗るながら体を動かすことで、音楽に対して興味を持つ子が増えました」とスタッフ。このような活動をしていく中で、震災後はひよこ会の利用者が徐々に増えてきました。「震災時の対応、その後の受け入れや支援、体験学習などの活動を聞きつけた親御さんからの申込が多かったです」と青野さんは言います。

今年二月からは新たに名取市に『びび名取』も開所しました。名取、岩沼、栗生の三施設でそれぞれ体験学習などの行事が異なるので、三施設を行事に合わせて上手に利用する子どもも増えていきます。

震災前後で一番の変化は子どもたちのチームワークです。今までは自分だけだった子が、小さい子の面倒を見るようになったり、周りを見るような成長がありました。ひよこ会でもチームワークを大切に、子どもたちに喜ばれ



▲みんなでバレー遊び

る新たな取り組みをしたいと思っ
ています」と青野さん。六月末には『かほく108ファンド』の助成金で、長距離バスを利用し、山形でサクラボ狩りとそば打ち体験を行います。
このようにひよこ会では、今後も新しいことにチャレンジすることを忘れず、少しでも子どもたちの障がいの壁を無くす活動を目指しています。

NPO法人ひよこ会

〒989-2459 岩沼市たけくま1-26-8
●TEL: 0223-25-3034
●FAX: 0223-25-3035
●http://hiyoko-kai.com/

手作り雑巾で被災者を元気に

ACT53仙台



ACT53仙台(代表・矢吹真理子)は、二〇〇人のうち五十三人(半分以上)の人が変われば、世の中は変わる」という願いを込めて、ごみ(五三)についてアイデアを出し合い、積極的に行動(ACT)しようと二九九一年に仙台市で結成されました。

家庭の不用品を販売する「リユースマーケット」や、不用品衣類やシューズ、タオルなど古布の再利用コーナーを設ける「もったいない市」の開催や、エコ楽クッキング、ゴミ分別体験会といった、出前講座などを行っています。

東日本大震災以降は、これまでの経験や繋がりを活かした被災者支援を続けています。



▲左から、メンバーの岡菜実さんと木下牧子さん

活動の持ち味を活かす

大震災直後はまず、物資支援から動き出しました。発災から一週間後ぐらいから、知り合いやつながりのあった団体などから衣類や合羽、長靴などの物資を集め始め、被災者の要望の

情報を得ながら届けました。津波が襲った地域の被災者は、着の身着のまま避難したため、衣服はその日着ていたものしかなく、「情報が少ないなかで、今必要なものを的確に運んでくれるなんて」と、たいへん喜ばれました。その後も、これまでの繋がりを活かし、企業や避難所にニーズに合わせて物資を届けました。

「もともと、もったいない市を四月中に行う予定だったこと、そして私たちの団体の強みである、衣類のリユースという部分が重なり、すぐに動けました。つながりのあった団体や知人を通してタオルや衣類が届けられました」と、事務局事業担当の木下牧子さん。そのほかにも、新学期が近づき、ランドセルや文房具を集め、届ける活動なども行いました。物資支援は避難所が閉鎖される九月ごろまで続けました。

『げんき雑巾プロジェクト』開始

物資支援と並行して、昨年四月から避難所で暮らす被災者が、生活のハリを出してもらおうとかけなればと、『げんき雑巾プロジェクト』を始めました。はじめは被災者の方が、お世話になっているみなさんへとタオルをせうきんを縫ったものでしたが、それを広げて被災者のみなさんのささやかでも報酬になるようにと考えました。



▲唐桑の作り手のみなさん

高齢者でも誰でもでき、ミシンがなくてもどこでも、いつでも気軽に作れると喜ばれ、活動の輪が広がりました。今までに唐桑、気仙沼、志津川、石巻などの八地域の仮設住宅など四十か所で、約一〇〇人が縫い手として参加しました。

当初避難所では、お金のやり取りがあるこの活動をなかなか広げられず、知り合いや伝手を頼って参加者を募りました。グループで縫っているところでは、リーダーとなる方にACT53仙台と縫い手さんをつなぐ、まとめ役を担ってもらい、顔と顔の見える関係を築き、縫い方や支払いのやりとりをスムーズに行うことができました。現在は、二週間に一回のペースで訪問し、雑巾の完成品の受け取りと同時に報酬の支払いをしています。雑巾は三枚一組五〇〇円で販売し、そのうち三二〇〇円が雑巾を縫った縫い手(＝被災者)へ報酬となります。電話やFAX、メールで注文を受け、現在まで一萬五千枚を販売しました。今後は五千枚を販売し、計二万枚の合計枚数を目指しています。

製品としての質の向上を目指して

げんき雑巾は、作り手が刺しゅう糸等を使い一針一針、手で縫って、模様も違う人それぞれ工夫した楽しい「雑巾」です。最初は、雑巾の縫い方は特にルールを決めていませんでしたが、販売するものという意識を持って作成してもらったため、今年二月から縫い方のルールを細かく決めました。自分が買う側だったら、どんな物が欲しいか考えて、納得したものを作成してもらい、ACTのメンバーも、完成品を確認し、到達点に達していないものに関しては、直してもらおうようにしています。「自分が買う側だったら、綺麗な縫い目のほうがいい。自分だったら」と置き換えて作成すると、前よりも使う人を使い、一針一針丁寧に縫うようになった」と作り手の方から聞かれました。

「最近では、仕事を始めて縫い手を卒業する方も出ています。次のステップへ進んでいる様子を知ることができ、とても嬉しいですね」と事務局の岡菜実さん。

今後、げんき雑巾プロジェクトを通して、震災を思い出すきっかけになるよう、全国にむけて活動を展開して行きます。

ACT53仙台

- 〒983-0852
- 仙台市宮城野区榴岡3-11-5 A105
- TEL/022-295-0878(木下) 022-295-2910
- FAX/022-295-2910
- URL/http://www12.ocn.ne.jp/~act53/
- ブログ/http://act53genki.blog.fc2.com/

Save Japanプロジェクト

みんなで守る水辺の自然

小川に見つけたシナイモツゴ



絶滅危惧種の保護と復元に取り組み鹿島台の人々の姿を、街場に住む小学生にも知ってもらい、自然の大切さを学ぶと同時に地元小学生との交流も図ろう！という「Save Japanプロジェクト」もスタートしました。

第一回は、水辺の貴重な生き物観察会。梅雨の晴れ間の六月十七日(日)、仙台の小学生とその保護者の十一家族三十二名が仙台駅に集合し、貸切バスでシナイモツゴが住む大崎市鹿島台へ。観察会の会場となる深谷川べりに向かう途中、JR鹿島台駅前、地元の子も四人を含む三家族七人が合流し、バスはかなり狭い田んぼ道へと進みました。あとはみんなで歩いて深谷川に到着です。

まずは、開会式が行われ、主催者のシナイモツゴ郷の会理事長の二宮景喜さん、杜の伝言板ゆるる代表理事の大久保朝江、そしてスポンサーである損害保険ジャパン仙台支店古川支社長の飯盛正さんの挨拶があり、続いてシナイモツゴ郷の会理事の鈴木康文さんから、自然観察の進め方について説明がありました。



▲目を輝かせ小川の生き物を探す

小川で出会ったたくさんさんの生物

いよいよ貴重な生物と出会う観察会のスタートです。前日から降り続いた雨もすっかり止み、日差しも戻ってきました。子どもたちは、虫取り網とバケツを、大人は朋長を着て大きめの網を持ち、思い思いに小川に入って生物を探します。網をいれるとアメンボやカエルが跳ね、ザリガニ、メダカなど、川に住む生物が川藻と一緒にかかっています。

田んぼのあぜ道では、蛇の抜け殻も発見。初めて触るカエルに歓声を上げる子どもたち、昔を思い出して子どもたち以上に目を輝かせて生き物を探すお父さんお母さん。あちこちからはじめて見る生き物を見つけては歓声が上がります。あつという間に時間が過ぎていききました。そして、シナイモツゴも捕獲。小さな小川でしたが、とてもたくさんさんの生物が生きていることに気づきました。名残惜しみながら川の観察会を終え、場所を学童農園に移動して昼食です。

昼食は、シナイモツゴの住むきれいなため池の水で育てた「シナイモツゴ郷の米」のおにぎりやトン汁、そしてお漬物です。地元の「かしまいシナイモツゴ郷の米つくり手の会」(以下、作り手の会)の皆さんが、作ってくれました。昼食後、つくり手の会会長の吉田千代志さんから、おいしい米を作るためにはシナイモツゴなどの生物が住める

環境が大切なこと、その環境を守るためにため池の草刈りや池干し、補修作業などを行って、なにより安全に気を配って米を作っていることなどのお話があり、米と生き物が暮らせる環境との深いつながりを学びました。



▲自然環境を守る活動を学ぶ

そして、午前中に小川でみんなが捕まえた生き物は種類ごと水槽に分けられてあり、それを観察しながら、ひとつひとつの生物についてシナイモツゴ郷の会副理事長の高橋清孝さんから説明がありました。意外と小さいシナイモツゴの姿を真剣に見る子どもたち。まなざしは、地域の皆さんにとっても自然環境を守る想いが伝わった瞬間でした。

シナイモツゴの誕生地

プログラムの最後は、シナイモツゴの繁殖池の見学です。そこは、大崎市いこの森の奥にあるため池。シナイモツゴは、池の水面近くに設置された植木鉢を活用した繁殖ポットに卵を産みまます。孵化する頃に卵を保護し、里親に届け、一年程育ててもらってから、地域内のため池に放流します。今回は、ちょうど繁殖期のためシナイモツゴ郷の会のメンバー二名だけが池に入り、順番に岸辺で繁殖ポットに産み付けられた卵を見せてもらいました。初めて見るシナイモツゴの卵に子どもたちは興味津々で観察していました。

仙台や鹿島台からの参加者と、シナイモツゴ郷の会の皆さんとお別れの場は、シナイモツゴの名前の由来となった、品井沼の干拓地が一望に見渡せる高台でした。

Save Japanプロジェクト

- <http://savejapan-pj.net/sj2012/>
- NPO法人シナイモツゴ郷の会
- <http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>

(注)Save Japanプロジェクト

株式会社損害保険ジャパンが、お客様がWeb約款を選んだ場合に、その削減できる経費を寄付。認定NPO法人日本NPOセンターと共に各地域のNPOと連携し、日本各地の希少生物を守る活動を行う事業。今年是全国47都道府県で実施中。



▲シナイモツゴの卵を観察

参加した保護者の皆さんからは「シナイモツゴのための地域の人がこんなに力を尽くしているのだと知って感動した」「このような素晴らしい活動を知らなかったのも、もっと多くの人が知ってほしいなどの感想を頂きました。大自然の中で子どもたちの好奇心いっぱい笑顔と、地域の貴重な自然をおもいきり堪能し、地域の環境と生き物と農業のつながりとそれを守る取り組みに触れた一日となりました。

今後、九月下旬に収穫体験会、十一月に環境保全活動について報告するフォーラムを行う予定です。



「市民」と「NPO」を繋ぐ!

みやぎNPO情報ネット

みやぎ NPOプラザ

このページは、宮城県からの
NPO関連のお知らせです。

「みやぎNPO情報ネット」(以下「情報ネット」)は、宮城県内のNPO・市民活動団体の情報やイベントの情報、活動を支援する情報などを発信しているポータルサイトです。宮城県とNPO法人の伝言板ゆるるが協働で管理・運用しており、今年度で公開から二年目を迎えています。

「みやぎNPO情報ネット」は日々情報発信しています。

情報ネットのPAPERS

- みやぎのNPO検索
団体の名称や地域、活動分野などから検索することができます。悩んでいることを相談できる団体はないか?といった方にお勧めです。具体的な事業内容については、「NPOの事業案内」をご覧ください。
- ボランティア募集
各団体のボランティア募集の情報がまとめてあります。「ボランティアを始めたいけど、どんなボランティアがあるのだろうか」という方は、ジャンルごとに分かれていますので、探し易くなっています。(有償のものは「有給スタッフ募集」に掲載しています)
- イベント&講座
NPO主催のイベント等を掲載しています。各団体の専門性が活かされたイベントが多数載っています。
- その他、「助成金情報」「行政からのご案内」「NPOお役立ちリンク集」など、実際に活動をし



ているNPOへのサポート情報も掲載しています。

三・一一震災からの情報ネットの動き

三・一一の震災後、情報ネットは十五日に復旧し、すぐに震災に関する情報を収集・発信しました。県内各災害ボランティアアセンターの現状、NPOのボランティア募集情報や義捐金・支援金の受入れ先情報、震災関連の助成金情報など、その時々で必要とされている情報を常にお知らせしてきました。インターネットという性質から全国からお問い合わせを頂き、また多数の情報もいただきました。復興までの道はまだまだ始まったばかり。震災から一年が過ぎた今も、復興に関する情報の発信も続けています。

●NPO法人の設立を新しく申請した団体				宮城県所轄分5月11日～6月10日 / 仙台市所轄分5月11日～6月10日	
所轄	団体名	所在地	活動内容	受理日	
宮城県	メディアージ	石巻市	一般市民に対する映像を中心としたTVやインターネットによる双方向の情報発信に関する事業等	6/5	
仙台市	仙台ベルフィーユ	仙台市青葉区	総合型地域スポーツクラブの運営及びトップアスリートの発掘・育成・支援事業、スポーツ振興の発展・支援及び協力推進事業等	5/11	
	みんな一書	仙台市泉区	書初め展の開催、WEBサイト・書生ネット運営、パフォーマンス・イベント開催、ワークショップ・セミナー開催等	5/21	

●NPO法人に認証された団体				宮城県所轄分 5月11日～6月10日 / 仙台市所轄分5月11日～6月10日	
所轄	団体名	所在地	活動内容	受理日	
宮城県	ピースジャム	気仙沼市	東北沿岸部地域を中心とした子育て支援事業等	5/14	
	働く場づくりコナモールw	牡鹿郡女川町	人との繋がりを感じられる活動の場づくりに関する事業等	5/22	
	自然治癒力増進協会	黒川郡富谷町	自然治癒力の増進による地域社会づくり事業等	5/25	
	Aiふくしネットワーク	仙台市泉区	高齢者及び要援護者に対する介護予防・生活支援事業等	5/28	
	まちの寄り合い所・うめばたけ	石巻市	世代間、地域住民、外国人などとの交流によるふれあい事業等	5/28	
	みらい南三陸	本吉郡南三陸町	地域住民等に対して、生産活動の場づくり、及び新規事業の開発に関する事業等	5/29	
	光壽会	刈田郡蔵王町	介護保険制度に関するサービス提供受託事業等	6/4	
仙台市	宮城県国際支援の会	仙台市若林区	社会的弱い立場にある人及び高齢者を支援するための事業、国際交流の理解を深めるための事業等	5/18	
	先進福祉推進協会	仙台市青葉区	一体型グループ・ケアホームの企画、運営、生活支援アパート、マンション、住宅等の提供等	5/31	
	ほっとたいむ	仙台市若林区	障害者自立支援法に基づく指定障害福祉サービス事業の運営	6/5	

宮城県のNPO法人数 **294 団体** ※2012年6月10日現在

仙台市のNPO法人数 **369 団体** ※2012年6月10日現在

●みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。

みやぎNPO情報ネット
<http://www.miyagi-hpo.gr.jp>

みやぎNPOプラザ
 〒983-0851 仙台市宮城野区榴岡5
TEL: 022-256-0505 FAX: 022-256-0533
 E-mail: npo@miyagi-npo.gr.jp

【環境・子ども分野】 2012年 Panasonic NPOサポート ファンド

【子ども分野】

- 助成対象: 子どもたちの健やかな育ちを応援するNPO/NGOの組織診断事業
※詳細はHPの要項をご覧ください
- 対象団体: 子どもたちの健やかな育ちを応援する新しい社会づくりを目指し、先駆的な活動と組織の自己変革に挑戦する、所定の条件を満たすNPO/NGO
- 助成期間: 2012年11月1日～2013年5月31日までの7ヶ月間
- 助成金額: 1件あたり上限100万円(総額800万円、件数8～10件程度)
- 募集期間: 7月17日(火)～7月31日(火) 必着
- 連絡先: (特活)市民社会創造ファンド
Panasonic NPOサポートファンド(子ども分野)協働事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル267-B
TEL: 03-3510-1221(月曜日～金曜日10:00～17:00)
FAX: 03-3510-1222
E-mail: kodomo@civildfund.org

【環境分野】

- 助成対象: 第三者による客観的・多様な視点を入れて組織診断を実施し、組織課題を抽出したうえで、自らが課題解決策を策定する事業
※詳細はHPの要項をご覧ください
- 対象団体: 環境問題の解決に取り組むNPO/NGO
- 助成期間: 2012年11月1日～2013年5月31日
- 助成金額: 1件あたり上限100万円(件数8件程度)
- 募集期間: 7月17日(火)～7月31日(火) 必着
- 連絡先: (特活)地球と未来の環境基金
Panasonic NPOサポート ファンド(環境分野)協働事務局
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-2-5
CTNビル3階
TEL: 03-5298-6644(月曜日～金曜日10:00～17:00)
FAX: 03-3255-2202
E-mail: eff-spf@eco-future.net

東日本大震災支援プログラム こころのケアのための“傾聴ボランティア”を応援します

- 対象団体: 1)被災地でこころのケア・傾聴ボランティアとして活動をしている団体
2)被災地から県外に避難を余儀なくされた方々を対象に、こころのケア・傾聴ボランティアとして活動をしている団体
3)上記の団体のうち次の条件を満たした団体
i)応募に際して、地元社会福祉協議会の推薦を得ること
ii)団体として、既に一年以上の活動実績があること
- 助成期間: 最長3年間 ※継続助成につきましては、経過報告を重視して決定
- 助成金額: 原則として上限年50万円
※助成額については活動内容および規模により査定
- 募集締切: 当財団所定の申請書により、7月31日(火) 17:00必着
- 連絡先: 公益財団法人 ユニバール財団
〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-8 YPCビル5階
TEL: 03-3350-9002 FAX: 03-3350-9008
URL: <http://www.univers.or.jp/top.html>

【環境分野】 2012年度ドコモ市民活動団体への助成

本年度、NTTドコモ創立20周年の節目を迎えることから、お客様と社会への感謝をこめて、地球環境保護に取り組んでいる市民活動団体への助成を行います

- 助成対象: 「環境を守る」をテーマにこれからの地球や地域の環境のためになる活動
※詳細はHPの要項をご覧ください
- 対象団体: 1)2年以上の活動実績を持つ日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体で、NPO法人などの法人格を有する、または取得申請中の団体(8月末までに法人登記が完了見込みの団体)
2)複数のNPOが連携した協働事業で、地域の中間支援組織が代表申請団体となる場合は、その協働グループ
- 助成金額: 1団体あたりの標準助成額は100万円、最高200万円までの申請が可能(助成総額2,500万円予定)
※標準額を超える申請の場合は施策内容などを審査のうえ決定
※採用基準に満たない施策内容であっても、団体の将来性・可能性などに特に期待が持てる申請については、標準額の半額程度を「活動奨励金」として助成する場合があります
- 助成期間: 2013年2月1日～2014年1月31日に実施する活動
- 募集締切: 7月31日(火) 必着
- 連絡先: (特活)モバイル・コミュニケーション・ファンド
〒100-6150 東京都千代田区永田町2-11-1
山王パークタワー29階
TEL: 03-3509-7651(平日10:00～18:00 土日祝除く)
E-mail: info@mcfund.or.jp

東日本大震災現地NPO応援基金

【一般助成 現地NPOの組織基盤強化プログラム】

- 助成対象: 被災者の生活再建を支援する現地NPOの組織基盤強化NPOの人的基盤、財政的基盤、情報基盤など運営基盤の整備、基礎的な支援ニーズ調査などの組織基盤強化につながるプロジェクトの実施など、今後の活動を充実していくために「組織の力」をつけていくこと
- 対象団体: 1)岩手県、宮城県、福島県において直接被災者の生活再建を支援する「現地NPO」
2)上記(1)の活動を行う団体の「現地ネットワーク組織」または「現地中間支援組織」
- 助成金額: 1件当たり300万円以内(助成総額は概ね1,500万円)
- 助成期間: 2012年10月初日から1年間以内
- 募集締切: 8月1日(水) 必着(期間中随時受付)
- 連絡先: 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル267-B
TEL: 03-3510-1221
E-mail: ksakamoto@civildfund.org

【特定助成 大和証券フェニックスジャパン・プログラム2012】

- 助成対象: 現地NPOのスタッフ育成を通じた組織基盤強化
- 対象団体: 岩手県、宮城県、福島県等において被災者の生活再建を長期的な視点で支援する「現地NPO(法人格を有することが原則)」で、特に次の目的をもつものを重視
1)災害孤児、障がい者、難病患者や高齢者、生活困窮者など、社会的に弱い立場にある被災者の生活再建を支援
2)被災者の安心・安全な居住・生活基盤の再建を目指した復興まちづくりを支援
- 助成金額: 1件あたり500万円以内(件数10件、総額4,000万円程度)
- 助成期間: 2012年10月～2013年9月の1年間
(毎年の応募と選考により継続助成も行う予定)
- 募集締切: 7月20日(金)～8月1日(水) 必着
- 連絡先: 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
「大和証券フェニックスジャパン・プログラム」事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル267-B
TEL: 03-3510-1221 FAX: 03-3510-1222

7/28 夏野菜で体を冷やそう！
省エネクッキング

E-mail: festa@sira.or.jp
URL: http://senfes2012.jimdo.com/

夏野菜には体を冷やす効果があります。省エネクッキングをマスターして、暑い夏を快適に過ごしてみませんか？

- 日 時: 7月28日(土) 13:30~14:30
- 場 所: MELONcafe(青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル5F MELON事務局内)
- メニュー: トマトとモッツアレラチーズの冷製パスタ
- 定 員: 10名(先着順)
- 参加費: 一般400円 MELON会員300円
- 持ち物: エプロン、マイタンブラー
- 申込方法: 氏名(フリガナ)、連絡先を明記の上、下記連絡先まで申込
- 申込締切: 7月26日(木)
- 主 催: 公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
- 連絡先: 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル5F
TEL: 022-276-5118 FAX: 022-219-5713
URL: http://www.melon.or.jp/melon/

7/29 せんだい地球フェスタ2012
～HOPE STEP JUMP! 希望・前進・飛躍～

多文化共生、国際交流、国際協力の活動をしている団体が仙台国際センターに集合！世界の様々な文化が体験できる一日です。

- 日 時: 7月29日(日) 10:00~17:00
- 場 所: 仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山)
※仙台駅前・青葉通プラザ前から無料シャトルバスの運行有
- 内 容: ★世界の歌や踊り ★地球屋台村
★ワールドバザール ★参加団体の紹介ブース
★世界の文化体験広場 ★スペシャル企画
★在住外国人による弁論大会
※プログラムは変更になる場合があります
※マイ箸、マイカップの持参や公共交通機関での来場にご協力ください
- 参加費: 無料
- 協賛金: 本イベントを支えて下さる方は下記までご連絡ください(1口1,000円)
- 主 催: せんだい地球フェスタ実行委員会
- 連絡先: 〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内
TEL: 022-265-2480 FAX: 022-265-2485

TOI山の展示会 岩間祐一写真展
「バイテン遊び～風景を抱きしめて」Jin zao 2012

宮城県内在住の写真家・岩間祐一さんの大型写真展示と、「みやぎ蔵王福祉登山」の写真記録、東北チョモランマ登山隊が活動時に使っていた装備品とテントなどの展示を行っています。

- 日 時: 10月28日(日)まで
※開館時間: 9:00~15:30
- 場 所: 森の写真館(みやぎ蔵王 えぼしスキー場中腹)
- 入 場 料: 無料(会場連絡先 TEL: 0224-34-4001)
- 主 催: 東北アウトドア情報センター(TOI)
- 連絡先: 〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
みやぎNPOプラザ レターケースNo.25
TEL: 090-8616-1397 FAX: 022-774-1858
E-mail: toimail@nifty.com
URL: http://www8.ocn.ne.jp/~toi/

毎週水曜 NPOのための法人設立・団体運営相談

NPO法人の設立に関わることやNPOの運営について、お気軽にご相談ください。

- 日 時: 毎週水曜日 13:00~17:00
- 場 所: みやぎNPOプラザ
- 定 員: 3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間。
- 主 催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

8/23 NPOのための経営相談

事業計画を見直したい、何から手をつけていいかわからない…そんな時は外からの視点を取り入れてみませんか？

- 日 時: 8月23日(木) 13:00~17:00
- 場 所: みやぎNPOプラザ
- 定 員: 3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間
- 主 催: 宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先: みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

情報をお待ちしています

- 申込方法: 問合せ先を明記の上(初めてご利用いただく団体は団体概要も添付)、FAX、e-mail、郵送にてお寄せ下さい。 **掲載は無料です!**
- 締切: 毎月15日(翌月10日以降開催・締切となる情報を掲載します)
- 誌面の都合で掲載できない場合があります。○お問合せは事務局まで。
※申込みいただいた情報は「みやぎNPO情報ネット」にも提供いたします。

NPO法人杜の伝言板ゆるる
〒983-0852 仙台市宮城野区榴ヶ岡3-11-6 コーポラス島田B6
TEL: 022-791-9323 FAX: 022-791-9327
e-mail: npo@yururu.com

みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイト
「みやぎNPO情報ネット」

<http://www.miyagi-npo.gr.jp>



NPO法人杜の伝言板ゆるるが宮城県と協働で運用する、みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。ボランティアやスタッフの募集、講座・イベントのお知らせ、助成金・行政情報など、市民活動・NPOに役立つ情報が満載です。
問い合わせは、info@miyagi-npo.gr.jp まで

7/21 2012年第34回公開講座 「被災地の子どもに寄り添って」

.....
昨年の未曾有の大震災は、「ここに寄り添う」ことの大切さを学び直す機会になりました。自分自身の安寧を取り戻し、社会とどう向き合い、お互いにここに寄り添っていくことを学び考えていく講座です。

- 日 時:7月21日(土) 13:30~15:30(13:00~受付)
- 場 所:仙台市福祉プラザ 1階プラザホール
- 講 師:阿部芳吉氏(宮城教育大学特任教授)
- 参加費:無料
- 申込方法:不要。直接会場にお越しください
- 主 催:仙台市カウンセリング研究会
- 連絡先:〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3
仙台市民活動サポートセンター内 レターケースNo.49
TEL:022-272-3625 FAX:022-272-3625

7/21 誰でもわかるパソコン講習 ~障害者・高齢者・難病者・初心者対象の講習~

.....
パソコンを始めたい方、ちょっと分からないことがある方のために開催するパソコン教室です。ワード、エクセルからフリーソフト、デジカメに至るまで、様々な個別のニーズに対応します。

- 日 時:7月21日(土) 13:00~15:30
- 場 所:みやぎNPOプラザ(仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地)
- 参加費:1,000円
- 主 催:(特活)ピートスイッチ
- 連絡先:〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
みやぎNPOプラザ内 レターケースNo.28
TEL:070-5620-8198 FAX:022-292-7162

7/22 鎮魂と再生の祈りをこめて 『いま、人を弔うということ』

.....
身近な人間の死に直面した時、死者をどう葬るのか。東日本大震災と深く向き合ってきた方たち、宗教学者、法律家をまじえた多彩な顔ぶれで話し合います。

- 日 時:7月22日(日) 13:00~16:30
- 場 所:仙台市シルバーセンター 交流ホール(仙台市青葉区花京院1-3-2)
- 内 容:★基調講演「今、弔うことの意味を問う」
島田裕巳氏(宗教学者、「葬式はいらない」など著書多数)
★シンポジウム
座長:鈴木岩弓氏(東北大学教授(宗教学))
出席者:丹野綾子氏(河北新報社記者)
金子隆一氏(みやぎ生協元理事)
阿部みちよ氏(葬送の自由をすすめる会東北支部長)
島田裕巳氏(宗教学者、葬送基本法推進懇談会委員)
中村裕二氏(弁護士、葬送基本法推進懇談会委員)
- 参加費:無料(予約の必要はありません)
- 主 催:(特活)葬送の自由をすすめる会
- 連絡先:(担当:阿部) TEL/FAX:022-285-5045

7/22 女性のためのこころのケア講座 精神的暴力・感情的暴力~暴力を知ることでケアを進める・その2

.....
DVなど、傷ついた経験をもつ女性のための講座です。講座の終わりには、持ち帰りのできるしおりやカードを作ります。

- 日 時:7月22日(日) 13:30~15:30
- 場 所:エル・ソーラ仙台
- 対 象:仙台市内在住・通勤・通学の女性
※高校生以上の当事者女性に限る
- 定 員:20名
- 参加費:500円(アート材料費、お茶代)
- 託 児:子ども1人300円
※6ヶ月以上小学1年生まで
※しょうがいのあるお子さんや上のお子さんについても応相談
※先着順、定員になり次第締切(託児締切:7/12)
- 申込方法:下記連絡先まで問合せ
- 主 催:仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団
- 企画協力:(特活)ハーティ仙台
- 連絡先:エル・ソーラ仙台相談支援係
TEL:022-268-8302
(9:00~17:00 日祝・休館日を除く)
URL:<http://www.sendai-l.jp>

7/26 NPOのための会計・税務相談

.....
日々の会計業務から決算書作成や税金のことなど、NPO会計に詳しい税理士が、ご相談をお受けします。

- 日 時:7月26日(木) 13:00~17:00
- 場 所:みやぎNPOプラザ
- 定 員:3団体(先着順)
※要予約。相談時間は1団体約1時間
- 主 催:宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 連絡先:みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

7/26 わくわくどきどき!夏休み体験学習!! 早寝・早起き・朝ごはん...『親子で市場を探検しよう!!』

-
- 日 時:7月26日(木) 6:00~9:30
 - 場 所:仙台市中央卸売市場
 - 定 員:小学生の親子15組(30名)
 - 参加費:1組1,500円(朝ごはん・保険料込み)
 - 申込方法:イベント名、住所、電話番号、氏名(フリガナ)、年齢を明記の上、ハガキ、FAX、Eメールにて申込
 - 申込締切:7月17日(火)応募者多数の場合は抽選
 - 主 催:食育NPO「おむすび」
 - 連絡先:代表:清水 智子
E-mail:tomokoomusubi0222@yahoo.co.jp
事務局:木村 和子
〒984-0822 仙台市若林区かすみ町1-47
TEL/FAX:022-285-0824

7/10 7/18 **市民のための**
デザインレイアウト・作文講座

市民の情報発信に必要なチラシ、パンフレットなど印刷物のデザイン・レイアウトの基礎を分かりやすく学ぶ講座と、東日本大震災を書き残したい方や書き方がわからず困っている方などのための作文講座を開催します。

【市民のためのデザインレイアウト講座】

- 日 時:7月10日(火) 19:00~20:30
- 講 師:真山正太氏(グラフィックデザイナー)
- 参加費:1,000円

【市民のための作文講座～東日本大震災を書き残す～】

- 日 時:7月18日(水) 19:00~20:30
- 講 師:大泉浩一氏(ライター、編集者)
- 参加費:500円

【共通事項】

- 場 所:仙台市市民活動サポートセンター 研修室2
- 定 員:各回15名(申込先着順)
- 主 催:NPOメディアデザインサポート
- 連絡先:〒980-0801 仙台市青葉区木町通1-1-11
朝日プラザ北一番丁1階
TEL:090-3049-0613 FAX:022-224-5308
E-mail:npo@md-sendai.com
URL:http://www.md-sendai.com

7/10 **親業セミナー「子どもを伸ばす関わり方」**
～子どもの自主性を育てるには～

子育てについて、日頃疑問や問題を感じていませんか?このセミナーでは、親と子のコミュニケーションをより良くし、子どもの考える力を伸ばす“ゴードン博士のコミュニケーション・メソッド”を紹介します。

- 日 時:7月10日(火) 10:00~11:45
- 内 容:「子どもを伸ばす関わり方」～子どもの自主性を育てるには～
- 場 所:エル・パーク仙台(141ビル5階)
- 講 師:石田えみ子氏(PETフォーラム代表、親業訓練シニアインストラクター)
- 参加費:1回500円
- 主 催:PETフォーラム
- 連絡先:TEL/FAX:022-281-0858
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~smile55/index.html

7/10 7/17 7/24 **ふくしまほっこりカフェ**

家族のこと、しごとのこと、学校のこと、これからのこと…今気になることや知りたいことを持ち寄って話します。お茶とお菓子を囲んでゆっくり気軽に話しましょう。情報交換や報告などもどうぞ。

- 日 時:7月10日、17日、24日(毎週火曜日、5週目は休み)
全日程10:00~12:00
- 場 所:ハート&アート空間 ピーアイ(仙台市青葉区立町20-11ミカミハウス2階)
- 参加費:無料 ※カンパ歓迎
- 申込方法:下記連絡先までお問い合わせください
※ちいさいお子さんも連れてどうぞ
- 主 催:ふくしま ほっこりカフェ実行委員会(ハート&アート空間ピーアイ内)
- 連絡先:(担当:清水)
TEL:022-262-2969 FAX:022-262-2975
E-mail:zoukabako@gold.ocn.ne.jp

7/12 7/18 7/25 **NPOマネジメント出前講座**
押さえておきたい!改正NPO法理解講座

NPO法改正に伴い、所轄庁の変更や会計報告の仕方も変わるほか、理事代表権の制限に関する登記も必要になります。全NPO法人に関わるNPO法改正のポイントを学びます。

- 日 時:【登米市会場】 7月12日(木) 14:00~16:00
登米市迫公民館(登米市迫町佐沼字中江2-6-1)
【柴田町会場】 7月18日(水) 18:30~20:30
柴田町まちづくり推進センター「ゆるぶら」
(柴田郡柴田町大字上名生字新大原194-1)
【石巻市会場】 7月25日(水) 14:00~16:00
石巻市役所4階401会議室(石巻市穀町14-1)
- 講 師:大久保朝江(みやぎNPOプラザ館長、(特活)杜の伝言板ゆるる代表理事)
- 対 象:NPO法人の代表、役員、スタッフ など
- 定 員:登米市:50名 柴田町:20名
石巻市:30名 (全て申込先着順)
- 資料代:500円
- 主 催:宮城県(みやぎNPOプラザ)
- 企画・実施:(特活)杜の伝言板ゆるる
- 後 援:登米市、石巻市、柴田町
- 連絡先:みやぎNPOプラザ(連絡先はP8をご覧ください)

つるがや元気会健康講座

7/13 **増え続ける大腸がんについて～より**
良い検査、治療を受けて頂くために～

高齢化社会の中で増え続けている怖い大腸がん。でも適切な受診、治療で治るチャンスも多いこの病気。知っておいて損をしない講座です。

- 日 時:7月13日(金) 14:00~15:30
- 場 所:鶴ヶ谷市民センター(仙台市宮城野区鶴ヶ谷2-8-7
みやぎ生協鶴ヶ谷店2階)
- 講 師:木村良直氏(社会医療法人康陽会 中嶋病院院長)
- 参加費:無料
- 主 催:つるがや元気会
- 連絡先:ひまわり手芸店(担当:芦澤)
TEL:022-251-5663

7/14 **仙台市シニア活動支援センター 専門相談**

高齢者や障害者の生活支援活動や、仮設住宅でのボランティア活動に参加してみたい方への個別相談会です。

- 日 時:7月14日(土) 10:00~16:00(1人50分程度)
- 場 所:仙台市市民活動サポートセンター 3階
- 専門相談員:藤田佐和子氏((特活)市民福祉団体全国協議会復興支援仙台事務所)
- 対 象:おおむね55歳以上で、活動の内容や情報、参加の仕方、シニア世代の活動事例を知りたい方など
- 参加費:無料
- 定 員:5名(個別相談、グループも可)
申込先着順、定員になり次第締め切り
- 申込方法:名前、年齢、住所、連絡先(TEL・FAX・メール)、申込の動機や相談したいことを明記の上、電話、FAXにて申込
※申込は7月6日(金)から受付開始
- 主 催:仙台市シニア活動支援センター
- 連絡先:〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3
仙台市市民活動サポートセンター3階
TEL:022-217-3983 FAX:022-217-3984

- 日 時:毎月第1水曜日 10:00~11:30
- 場 所:おひさまキッズ(仙台市宮城野区幸町5-12-7 三井会館2階)
- 対 象:0歳児(第一子のみ)と保護者
- 参加費:100円
- 主 催:(特活)おひさまキッズ
- 連絡先:TEL:080-1800-0225(担当:佐藤) 090-9741-6334(代表:平塚)
※参加の際は事前にご連絡下さい。

【冊子】環境活動40の証言 3.11あの時 「東日本大震災2011年3月11日(金) 14時46分からの物語」

未曾有の大震災から目をそらさず、忘れないでほしい。多くの学びを活かし、環境復興を目指してほしい。そんな思いを込めて、東北で環境活動に携わってきた人々の声40件をまとめました。

- 費用:無料
- 配布:部数に限りがあるためお1人様または1団体につき1冊までの配布
- 内容:★ヒアリング対象
環境NPO、企業、福祉施設、メディア関係者、個人などこれまで環境活動に携わってきた皆さま
★ヒアリング内容
・あの時:どのように被災したのか、当時の状況
・ライフラインが止まって:震災直後の状況
・支援活動:どのような支援活動に取り組んだのか、支援の現場の声
・震災を振り返って:振り返って思うこと、これからの展望
- 主 催:東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)
- 連絡先:(担当:鈴木)
〒980-0014 仙台市青葉区本町2-5-1 オークビル5F
TEL:022-290-7179 FAX:022-290-7181
E-mail:info@epo-tohoku.jp
URL:http://www.epo-tohoku.jp/

こころのケアサポート(特活)みどり会 「小規模地域活動センター」・「グループホーム」

NPO法人みどり会は、精神障がいを持つ当事者とその家族に対する支援を通して、誰もが「善い人生」を得るために地域で安心して暮らせる社会の実現を目指して、必要な活動を行っております。

<小規模地域活動センター>

- 開 所 日:月~金曜日、10:00~16:00頃まで(応相談)
- 場 所:みどり工房永和台(仙台市泉区永和台24-1)
みどり工房若林(仙台市若林区若林2-5-5 SKビル2F)
- 内 容:・請負作業(箱折等)、創作活動(手芸品等)、外部での作業、レクリエーション等イベント企画、フリースペースとして活用など
※施設ごと内容が異なるため、要問合せ
- 費用:・みどり工房永和台:1,500円/月
・みどり工房若林:2,500円/月
※保険料、レクリエーション費等は、要問合せ
- 作業報酬:作業収入から必要経費を差し引いた額

<グループホーム>

- 場 所:みどりの家小田原(仙台市青葉区小田原)
みどりの家中江(仙台市青葉区中江)
- 費用:部屋代:みどりの家小田原・33,000円/月
みどりの家中江・25,000~32,500円/月

- ・食事代:共に19,800円/月(朝夕2食、土日は提供なし)
- ・敷 金:共に部屋代の1ヶ月分
※光熱費、その他の経費等は、要問合せ
※国より1万円の特別給付(家賃補助有。毎月)
- 申込方法:下記連絡先まで電話にて申込の上、施設見学。通所希望の場合は体験利用し、その後面接を経て利用契約の手続き
※契約時、主治医の意見書が必要
- 主 催:(特活)みどり会
- 連絡先:〒980-0001 仙台市青葉区中江2-23-11
コーポ阿部101-1
TEL:022-707-4741 FAX:022-707-1522

第30回「サンフランシスコNPOボラン ティア体験プログラム」

~教科書にのっていないアメリカ体験~

アメリカ西海岸のサンフランシスコ地域で、NPOやボランティアについて学び、マイノリティのアメリカ、貧困、差別など、草の根からの取り組みを体感するプログラムです。

- プログラム日程:
現地14日間プラン:2012年9月6日(木)~9月19日(水)
※他に10日間、5日間プランもあります
※現地参加型のため、日本からの移動日程は含みません
- 対 象:18歳以上
- 定 員:24名(最少催行人数:各6名)
- 参加費:14日間プラン 162,300円(早割)
※プログラム研修費用及び宿泊費のみ
※現地までの交通費や食事代等個人的な諸費用は含みません
- 申込方法:参加希望用紙を下記連絡先まで郵送、FAX、E-mailにて送付
※http://www.jpnm.org/taiken/sanka.html からオンライン申込も可能
- 申込締切:(早割)7月16日(月)、(最終)8月3日(金)
- 主 催:日本太平洋資料ネットワーク(JPRN)
- 連絡先:事務局(担当:山本(日本)、野房(アメリカ))
TEL/FAX(日本):044-511-8117
E-mail:akane@jpnm.org
URL:http://www.jpnm.org/



イベント



7/10 火 ~あなたの心に寄りそう~ 傾聴ボランティア公開講座

東日本大震災後、被災者に寄り添う活動として注目されている傾聴ボランティア。一生懸命「聴く」ことで救われる「いのち」が必ずあると思います。「傾聴」による命の大切さを考えてみませんか?

- 日 時:7月10日(火) 10:00~12:00
「『喪失』ということ」
講師:菊池武烈氏(東北大学名誉教授)
- 場 所:仙台市福祉プラザ 1階プラザホール
※直接会場にお越しください
- 参加費:無料
- 主 催:仙台傾聴の会
- 連絡先:〒981-1101 仙台市太白区四郎丸神明45
TEL/FAX:022-343-9705
携帯:090-6253-5640
E-mail:moriyama-e@tulip.sannet.ne.jp

災害救援に関心のある方、有給スタッフを募集します

1979年に設立された国際NGOです。緊急・難民支援や地雷被害者などの障害者支援、世界の現状への理解を促進するための啓発活動など、これまで55の国で活動を行ってきました。東北地方太平洋沖地震の被災現場でも支援活動を行っており、仙台事務所のスタッフを募集します。

- 職 種：経理、事務全般および災害救援活動 若干名
- 契約期間：平成25年3月31日(日)まで
- 勤務時間：10:00～18:00
週休2日制(土日の出勤も発生しますが、代休を取得していただきます)
- 勤務場所：仙台事務所 (住所は下記連絡先参照)
- 報 酬：月額230,000円(試用期間(2ヶ月)は月額6,000円)
- 応募条件：Word、Excel、E-mail等基本操作ができること
社会人経験が3年以上ある方
- 申込方法：基本は所定の身上書に記入の上、提出してください。
※入手不可の場合は履歴書でも可能
身上書は<http://www.aarjapan.gr.jp/recruit/>からダウンロード
- 応募締切：スタッフ決定まで、随時受付
- 募集主体：認定NPO法人 難民を助ける会
- 連絡先：仙台事務所 (担当：大松)
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-16 家福ビル3階
TEL:022-748-5781 FAX:022-748-5782
E-mail:japan_eq2011@aarjapan.gr.jp
URL:<http://www.aarjapan.gr.jp/>

- ★日本パートナーシップ賞(5事業)
- ・NPO:記念盾、副賞(10万円)
- ・企業:記念盾
- ★その他 特別賞

- 申込方法：下記連絡先のURLより応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記連絡先まで申込
- 申込締切：7月31日(火) 18:00必着
- 主 催：(特活)パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
- 連絡先：「第9回日本パートナーシップ大賞」募集係
〒464-0067 愛知県名古屋千種区池下1-11-21
サンコート池下4F
TEL:052-762-0401 FAX:052-762-0407
E-mail:info@psc.or.jp
URL:<http://www.psc.or.jp>

3.11東日本大震災の写真・映像を撮っていませんか？

震災当時のご近所、復旧・復興の様子、震災の中での生活ぶりなどを撮影した写真・映像を募集しています。写真は、後世に残すための震災記録やパネル展などに活用させていただきます。

- ★3.11市民が撮った震災記録：
<http://www.sendai-city.org/311.htm/>

- 提供方法：撮影者の名前、撮影日、撮影場所(説明があれば10～30字程度のコメント)を書き添えて、メールまたはCDでご送付ください
※携帯電話で撮影された画像も可
- 連絡先：(特活)20世紀アーカイブ仙台
〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-11-2
TEL:022-387-0656 FAX:022-387-0651
E-mail:info@sendai-city.org
URL:<http://www.d2.dion.ne.jp/~clip/20thcas.html>

お知らせ

第9回 日本パートナーシップ大賞

社会にインパクトを与えた特色ある協働事業を表彰します。企業との協働に取組み、地域や社会を動かしている全国のNPOや、CSRの一環としてNPOとの協働を推進している企業の皆さん、ぜひ応募ください。

- 募集期間：6月1日(金)～7月31日(火) 18:00
- 応募条件：・日本に所在するNPO(法人格の有無不問)と企業の協働事業
・応募の時点で継続中および事業終了後1年以内のもの
・自薦または第三者による推薦(ただし、NPOおよび企業の双方の理解が得られていること)
- 表 彰：★日本パートナーシップ大賞グランプリ
・NPO:記念盾、副賞(30万円)
・企業:記念盾

事業案内

なりたてママの子育てサロン“おひさまBaby”

おひさまキッズの子育てサロンでは、ママになったからこそできるお友達や、先輩ママの子育て経験を聞いたり、地域の子育て支援情報も得られます。「おひさまBaby」を利用して、子育てを楽しんじゃいましょう。

ありがとうございます!!

今月の新入会員・継続会員 (2012.6.16現在)敬称略

●正会員 47名

- ★大河原町 ●NPO法人 ほっとあい
- ★栗原市 ●NPO法人みやぎ身体障害者サポートクラブ
- ★気仙沼市 ●NPO法人 ネットワークオレンジ
- ★仙台市 ●佐々木寛亮 ●佐藤わか子
●NPO法人 シニアのための市民ネットワーク仙台
●NPO法人 みどり会 ●吉田昭雄 ●若生敦

●賛助会員 31名

- ★塩釜市 ●まごころサービス塩釜センター
- ★仙台市 ●河北新報社 かほく「108」クラブ ●須藤達也
●NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター
- ★名取市 ●NPO法人イー・エルダール東北支部

●情報会員 71名

- ★石巻市 ●NPO法人 石巻スポーツ振興サポートセンター
●西公園プレハクの会
- ★大崎市 ●大崎市鹿島台まちづくり協議会
- ★仙台市 ●NPO法人 あかねグループ ●NPO法人 イコールネット仙台
●エル・ソール仙台 ●坂下康子
●仙台市太白区社会福祉協議会 ●高橋輝
●公益社団法人 認知症の人と家族の会 宮城県支部
●民主党宮城県第1区総支部 郡和子

会員募集

会員種類	年会費
個人正会員	10,000円
NPO正会員	10,000円
法人正会員	20,000円
個人・NPO賛助会員	5,000円
法人賛助会員	30,000円
情報会員	3,000円

杜の伝言板ゆるるは、地域の課題を解決するために活動するNPOの継続的運営や、それに参加するボランティアの育成を支援している団体です。特に1997年に創刊した月刊杜の伝言板ゆるるは市民活動やボランティアをしたい市民、それを応援したい企業、行政、そしてNPOをつなぐ情報誌として広く活用されています。これからもNPOや参加する市民にとって役立つ情報を発信し、地域の生活環境が向上するように活動していきますので、ぜひ、私たちの会員となって応援してください!!

■会員には毎月「月刊杜の伝言板ゆるる」が届きます。◎正会員以外は、総会での議決権がありません。

郵便
振替口座

口座番号 02250-0-43800
加入者名 特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる
(会員申込の方は、通信欄に会員の種類をご記入ください。)

information

6月15日までにゆるる編集部に届いた情報です。
詳細は各情報の連絡先にお問い合わせください。

ボランティア募集

2012年キッズベース夏休みボランティア募集

民間学童クラブ、アフタースクール:キッズベースでは、夏休み期間中にスタッフのお手伝いをしてくださるボランティアさんを募集しています。

- 日 時:7月21日(土)~8月25日(土) 9:00~18:00
※都合の良い日時に参加をお願いします
- 場 所:アフタースクール:キッズベース(下記連絡先参照)
- 活動内容:子どもの見守り、スタッフの補助
- 対 象:高校生以上 男女不問
- 募集人員:10名
- 報 酬:交通費500円
5時間を超える場合は1日2,000円(昼、夜食あり)
- 申込方法:電話、FAXにて申込
- 申込締切:7月20日(土)
- 主 催:(特活)働くお母さんと子どもを支援する会
- 連 絡 先:アフタースクール:キッズベース
〒981-0901 仙台市青葉区北根黒松2番10号
クローバース・ピアワッセ2階
TEL:022-346-0130 FAX:022-346-0156
E-mail: talisman@kidsbase.jp
URL: http://kidsbase.jp/

「Piccoli せんだい」2012ボランティア募集!

「こどもがつくるまち」は子ども達の自主性を育てるとともに、ボランティアスタッフにとっても気づきの多い成長の場です。一番お願いしたいことは「子ども達に対して指示、命令はしないこと!」。「Piccoli せんだい」のみ参加できる方も是非ご連絡ください。

- 活動内容:★月1~2 回行われる子ども会議への参加(参加者の見守りや相談役)
★子ども達と一緒に街歩きや職場体験
★「こどもがつくるまちPiccoli せんだい」の準備から当日まで参加
- 活動日時:・月1~2回 日曜日10:00~15:00(可能な時間帯で)
(1)こども会議10:00~12:00
(2)サポーター(大人)会議13:00~15:00
※両方に参加の方は昼食付き
・「Piccoli せんだい」当日
実施日:11月17日(土)、18日(日)
場所:宮城野区文化センター(宮城野区五輪2-12-70)
- 対 象:男女年齢問わず。笑顔があればOK!
※参加者が楽しめるように配慮し、自分も楽しむことができる方を大歓迎
- 募集人数:100名
- 参加費:無料
- 報 酬:活動経費依頼者負担、交通費等応相談
- 託 児:なし
- 申込方法:下記連絡先まで問合せ
- 申込締切:7月末日
- 募集主体:ピコせんサポーター
- 連 絡 先:(担当:遠藤)
〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-12-21-203号

TEL:080-2823-0872 FAX:022-355-2624
E-mail: info@picosen-kids.com
URL: http://picosen-kids.com

【急募】アクティブぽーと ボランティア募集 ~子ども達と一緒に活動しませんか~

アクティブぽーとは、障害を持つ子ども達が、放課後や休日等に地域の一員として、自分のペースで活動できる場です。子ども達が充実した日々を送れるように、活動をお手伝いしていただける方を募集します。*男子学生さん大歓迎です!

- 活動日時:月曜~金曜日 14:00~18:00
土曜日及び長期休暇期間 10:00~16:00
- 活動場所:アクティブぽーと(仙台市若林区蒲町11-21)
- 支援対象:小、中、高校生
- 交 通 費:往復支給(但し上限があります)
- 募集主体:(特活)アクティブ
- 連 絡 先:(担当:鈴木)
〒984-0073 仙台市若林区蒲町11-21
TEL/FAX:022-762-7112
E-mail: activ-port-2011@knf.biglobe.ne.jp
URL: http://activport.web.fc2.com/index.htm/

有給スタッフ

仮設住宅「あがらいん」 職員募集

主に介護施設の運営のほか、地域の方に寄り添った社会福祉に関するセミナー・フォーラムの企画や支援などを行っています。また、近所の方との交流が薄れつつある現代、安心して心地よく生活できる環境を整えるため、地域の方向けにコミュニティづくりのお手伝いもしています。

- 内 容:高齢者等の介護や日常生活のお世話、施設内の清掃、食堂の配膳、調理補助、来客対応など
※毎週木曜に、地域の方向けに食事会も開催しています。
- 勤務体制:シフト制(勤務時間要問合せ)、週休2日
- 勤 務 地:石巻・開成のより処あがらいん(石巻市開成1-5 開成公園グループホーム3号棟)
- 勤務条件:・月給17万6000円(夜勤手当有)
・社会保険加入 ・車通勤可
・食事付き(自己負担あり)
・宿泊施設あり(一部自己負担あり)
- 契約期間:25年3月まで(更新の可能性あり)
- 対 象:18歳以上の方
有資格者(介護経験者歓迎)
- 申込方法:履歴書(写真貼付)・職務経歴書を下記送付先まで郵送にて申込
※書類選考後、面接日を個別に連絡
- 主 催:(特活)全国コミュニティライフサポートセンター
- 送 付 先:(総務部:堀切)
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30
シンエイ木町ビル1階
TEL:022-727-8730(質問等の対応16:00~18:00)



ボランティア・市民活動 情報

各種募集は
こちらから

information ● ボランティア募集 ● イベント事業案内 ● 電話相談

杜の伝言板

(特活)杜の伝言板ゆるる法人設立10周年記念事業

復興への道

～被災したNPOの軌跡、そして未来へ～

7/28
土

3.11の東日本大震災から1年4カ月。震災でNPOも施設の流失や損壊など被災しました。この1年、杜の伝言板ゆるるは被災したNPOを支援して地域の福祉活動を応援してきました。この夏、10周年を迎えるにあたり、支援したNPO9団体のリーダーが集い、当時の被災状況や資金支援、そしてそれぞれの復興への道を語ります。

時間 15:30～17:30

会場 みやぎ婦人会館 第1研修室

(宮城県仙台市宮城野区榴岡5番地)

*みやぎNPOプラザと同じ建物の3階になります。

※駐車場は大変込み合うことが予想されます。
公共交通機関をご利用ください。

終了後、10周年を
祝う交流会があります。

- 定員: 70名(先着順)
- 参加費: 無料
- 参加対象: どなたでも(事前申込制)
- 申込方法: 下記記入事項を明記うえ、電話あるいは、FAX、メールにて申込
- 申込記入事項: お名前、団体名、電話番号、メール

◆報告団体◆

(特活)住民互助福祉団体ささえ愛山元 (特活)泉里会 (特活)創る村
(特活)どんぐりの家 (特活)なごみ (特活)のんびり〜すみちちゃんの家
(特活)みどり会 (特活)みやぎ身体障害者サポートクラブ

◆コーディネーター: (特活)杜の伝言板ゆるる 大久保朝江

主催: 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

後援: 宮城県、河北新報社、東北労働金庫、かほく「108」クラブ、公益社団法人日本フィランソロピー協会

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド、認定特定非営利活動法人日本NPOセンター

申込・問合せ: 杜の伝言板ゆるる下記連絡先まで

NPO 法人 杜の伝言板ゆるる

日時 7/28(土) 13:30～15:15

会場 みやぎNPOプラザ

第10回 通常総会
のお知らせ

正会員の皆様のご出席をお願い致します。なお、議決権はありませんが、賛助会員の皆様もオブザーバーとして参加ができます。10周年記念事業「復興への道」のあと、交流会がありますので、ぜひ、ご参加ください。



発行: 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる
〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-11-6 コーポラス島田B6
TEL 022-791-9323 FAX 022-791-9327
E-mail npo@yururu.com URL http://www.yururu.com

編集: 大久保 朝江
相原 いづみ
デザイン: can

発行日: 2012年7月1日
発行部数: 10,000部
印刷: コマツ・コーポレーション

